

観世流

緑泉会

令和二年 第三回例会

九月五日(土)

午後一時開演

喜多六平太記念能楽堂

お客様各位

新型コロナウイルス感染症拡大防止の要請を受け、緑泉会は5月16日に開催予定でした第2回例会を来年、令和3年2月11日(木・祝)に延期致しました。皆様には何卒ご寛恕のほど宜しくお願い申し上げます。また、この6月に空り漸く自粛要請が解除されましたので、第3回例会を開催することに致しました。引き続きのご愛顧を重ねてお願い申し上げます。

新型コロナウイルス等の感染防止の観点より、今回は、公益社団法人能楽協会の「能楽堂における新型コロナウイルス感染症拡大予防ガイドライン」(令和2年)及び公益社団法人全国音楽文化施設協会の「劇場・音楽堂等における新型コロナウイルス感染症拡大予防ガイドライン」に沿って公演を開催します。

能 Noh 田村 Tamura 河井 美紀

狂言 Kyogen ... 二人大名 Futandainyaku ... 山本泰太郎

能 Noh 一角仙人 Kakasennin 桑田 貴志



田村 (撮影 よしこスタジオ)



一角仙人 (撮影 よしこスタジオ)

【お客様へのお願い】

- ご入場の際はマスクをご着用の上、入口にてアルコール消毒と検温にご協力下さい。
- 37.5℃以上の発熱や咳、嘔吐などの症状がある場合、入場をお断りいたします。
- チケットの切り離し部分に、お名前とご連絡先(メールアドレス、または電話番号)をご記入下さい。未記入の場合は、入場の際に芳名帳に記帳をお願い致します。
- ※ 万一、来場者ならびに出演者、スタッフに感染の疑いが生じた場合、所轄の保健所へ来場者情報を提出する場合がございます。
- 当日の社会状況により、使用可能な座席の指定を致します。**定員を超える場合は、入場を制限させていただくこともございます。**あらかじめご了承ください。
- 館内での会話・飲食などの制限を致します。スタッフの指示に従ってください。
- 上演中も換気のためにロビーとの扉を開ける場合がございます。外部の音などが障りになる可能性もございますが、ご了承下さい。
- 上演にあたり、演者も感染予防のための対策を講じますことをご了承下さい。

皆様の健康と安全を第一に考えております。ご不便をおかけすることもございますが、何卒ご理解ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

能田村 河井 美紀

旅僧 野口 能弘

大鼓 亀井 洋佑

從僧 野口 琢弘

從僧 吉田 祐一

門前ノ者 山本 則重

後見 墨 敬子

地謡 杉澤 陽子

津村 禮次郎

奥川 恒治

狂言 二人大名

大名甲 山本 泰太郎

通リノ者 山本 則孝

大名乙 山本 則秀

岩 船

奥川 恒治

筒井 陽子

仕舞 半 蔀

鈴木 啓吾

中森 健之介

松 風

津村 禮次郎

中 所 宜夫

〔休憩二十分〕

能一角仙人

官人 則久 英志

大鼓 柿原 孝則

小鼓 古賀 裕己

太鼓 澤田 晃良

奥昇 御厨 誠吾

奥昇 館田 善博

太鼓 藤田 貴寛

後見 中森 健之介

永島 充

地謡 鈴木 啓吾

吉留 敬高

附祝言

許可のない録音、撮影は一切禁止です。携帯電話は電源からお切り下さい。演能やお客様の迷惑となる行為はご遠慮願います。場合によっては退場頂く事がございますのでご了承下さい。

〔終了予定午後四時半〕

能田村 (たむら)

春爛漫の頃、東国出身の旅僧(ワキ)が都を目指し、音羽山の滝音に誘われて清水寺に至る。折しも地主権現の桜が満開で、花守の童子(前シテ)が木蔭を清めてゐる。僧の尋ねに答えて、童子は清水寺の縁起、周囲の名所を教える。縁起では賢心と云う修行僧が観世音菩薩の化身に導かれて田村磨の寄進を促した次第を語り、名所教えでは「春宵一刻値千金」の情景を描き出す。舞を舞う童子の神々しさに名を問うと、童子は地主権現のすぐ下にある田村堂の中に姿を消した。僧は門前の者(間狂言)に清水寺と田村磨の事を尋ね、その後花の下で夜すがら観音経を誦誦する。その結縁によって田村磨(後シテ)が現れ、東夷を平らげ悪魔を鎮めたのも清水寺の仏力によるものと、当時の有様を語って見せる。特に鈴鹿山の悪魔を鎮めるように宣旨を受けた時は、軍を進める先々に観世音の微が顕れ、鈴鹿山では千手観音の姿となって千の矢を放ち、鬼神を悉く滅ぼした子細を現した。後シテは軍体で登場するが、祝言の色あいが強い。世阿弥の作品と思われるが、一連の修羅物とは一線を画する。

狂言：二人大名 (ふたりだいみょう)

都へ上る二人の大名が通りがかりの者を太刀持に仕立てようとするが、理不尽に腹を立てた男の反撃に合い、太刀、小刀ばかりか素袍まで取り上げられ、鶏や犬の真似までやらされる。最初はいやいややっていたはずが、いつのまにか…。

仕舞 岩船 (いわふね)

撰州住吉の浦で高麗唐土の宝を買取るべく宣旨を受けた勅使の元に、天の岩船を守護する龍神が現われて、宝の御船を引き寄せ、宝を捧げて金銀珠玉を降らせる。

半蔀 (はじとみ) ケセ

夕顔の花の精が夏安居の終りに花の

供養をする僧の元に現われ、光源氏が五条に訪ねた夕顔の女となって、その出合いの場面を舞に舞う。隣家から聞こえた「南無当来導師弥勒仏」と誦する声を聞いたこと、夕顔の花を香を焚き染めた白扇に添えて源氏に届けた子細などを舞う。

松風 (まつかぜ)

かつて在原行平が須磨に流された折、汐汲として召された姉妹の姉松風の霊が、形見の舞装束を見るうちに恋しさが募り、執心狂乱の舞を舞う。「今帰り来む」と詠んだ松は遠い因幡国の松、この須磨の浦の松こそが行平に違いないと松をかき抱くが、松吹く風で音、須磨の浦の波の音にそれも妄執であると知り、僧に供養を頼んで、帰るかと思れば姿は消えて、後には松風の音ばかりが響いている。

能：一角仙人 (いっかくせんじん)

天然波羅奈国という古代インドのお話。官人(ワキ)が美女・旛陀夫人(ツレ)を伴って登場し、鹿から生まれた一角という仙人が龍神を岩屋に閉じ籠めてしまったため雨が降らず、美女によってその神通力を奪おうとする意図を語る。一行は山深く進み、ついに仙境に至る。あやしげな岩陰に薫風が立ち、見れば粗末な庵がある。そこにいたのは果して一角仙人(シテ)であった。

官人が仙人に酒を勧め、美女に舞を舞わせれば、やがて仙人はその後について舞い始める。やがてすっかり酒のまわった仙人は酔い伏してしまい、美女と官人たちは首尾を喜び帰路につく。

仙人が神通力を失ったため、龍神を封じ籠めた岩屋が鳴動し、中から龍神たち(ツレ)が現われる。ようやく目を覚ました仙人は、剣を抜いて立ち向かうが、神通力は既に失せ、龍神たちは喜んで龍宮に帰って行った。

金春禪竹の孫にあたる金春禪鳳の作とされ、物語の展開と視覚効果に優れた楽しい小品である。

入場料

会員券(年4回) 一般 20,000円 学生 10,000円

1回券(当日券) 一般 6,000円 学生 3,000円

申込先: 各出演能楽師または緑泉会まで

河井 美紀 TEL&FAX 050-7129-2077

桑田 貴志 TEL&FAX 03-3643-0891

令和2年 第4回例会 12月19日(土)

能… 玉鬘 Tamakazura …津村 禮次郎

能… 天鼓 Tenko …新井 麻衣子

能… 安達原 白頭 Adachigahara shirogashira… 墨 敬子



第3回例会 2020. 9.5 (土) PM1:00 (開場 12:00) 喜多六平太記念能楽堂 〒141-0021 品川区上大崎 4-6-9 ☎ 03-3491-8813 JR・東急目黒線・地下鉄三田線・南北線の日黒駅西口より徒歩7分 香港園手前の道を左折し約400m直進、杉野学園体育館手前を左に入る。 ※駐車場がございませんので、お車でのご来場はご遠慮下さい。